

あ
翔

あめつちほしそらやまかはみねたに
くもきりむろこけひといぬうへすゑ
アメツチホシソラヤマカハミネタニ
クモキリムロコケヒトイヌウヘスエ
天地星空山川峰谷雲霧室苔人犬上末
安以宇衣於加幾久計己左之寸世曾太
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ012
3456789, . ! ? * & %

39Q / 57H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀
発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼ

28Q / 44H

或曇った冬の日暮である。私は横
須賀発上り二等客車の隅に腰を下
して、ぼんやり発車の笛を待つて

20Q / 33H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二
等客車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を
待っていた。とうに電燈のついた客車の中には、
珍らしく私の外に一人も乗客はいなかった。外

15Q / 25H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の隅に腰
を下して、ぼんやり発車の笛を待っていた。とうに電燈のつい
た客車の中には、珍らしく私の外に一人も乗客はいなかった。
外を覗くと、うす暗いプラットフォームにも、今日は珍しく見
送りの人影さえ跡を絶って、唯、檻に入れられた小犬が一匹、

11Q / 19H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発
上り二等客車の隅に腰を下して、ぼんや
り発車の笛を待っていた。とうに電燈の
ついた客車の中には、珍らしく私の外に
一人も乗客はいなかった。外を覗くと、
うす暗いプラットフォームにも、今日は
珍しく見送りの人影さえ跡を絶って、唯、
檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそ
うに、吠え立てていた。これらはその時
の私の心もちと、不思議な位似つかわし
い景色だった。私の頭の中には云いよう
のない疲労と倦怠とが、まるで雪曇りの
空のようなどんよりした影を落していた。
私は外套のポケットへじっと両手をつ
っこんだまま、そこにはいつている夕刊
を出して見ようと云う元気さえ起らな

8Q / 15H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の
隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待っていた。とう
に電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も
乗客はいなかった。外を覗くと、うす暗いプラットフォ
ームにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶って、
唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそうに、吠え
立てていた。これらはその時の私の心もちと、不思議な
位似つかわしい景色だった。私の頭の中には云いようの